「大きな家族の輪」を繋ぐ税

習志野市立第五中学校３年　　長尾　碧唯

まさか私が新型コロナウイルス感染症に感染するとは思ってもいなかった。ＰＣＲ検査で陽性だと医療機関から電話連絡が入った頃には、家族にも症状が出ていた。私は二日で解熱し後遺症もなかったが、家族はそれから三週間ほど中等症と言われる症状に苦しむことになる。市から貸与されたパルスオキシメーターでの酸素飽和度の値が九十％を下回ることもあり、訪問看護の先生方が自宅訪問して点滴をしてくれたり、高濃度の酸素を排出する装置である酸素濃縮器を貸与してくれたりした。ちょうどその頃、私が生まれる前から飼っていたチワワが一五歳と一六歳で相次いで死んでしまったこともあり、悲しみのどん底にいた私は、家族も全員このまま死んでしまったらどうしようと不安でたまらなかった。そんな中で私を励まし、見守ってくれたのが、保健所の方々、訪問看護の先生と看護師さんたちだ。毎日健康観察の電話連絡をしてくださり、自宅訪問した際には数週間後に迫った期末テストの勉強をしている私に、頑張ってるね、えらいね、と優しく声をかけてくれた。食事も市からの配食サービスと祖父母の支援により困ることがなかった。もし家族に何かがあった時も私はひとりじゃない、見守ってくれる人たちがいるという心強さと感謝の気持ちはこれから先、一生忘れることはないだろう。

私たちは検査に行くという行動しかしていない。それにも関わらずこれら全ての支援が連携されていて、しかも一円も支払うことがなかった。もし税金がなければ、身体も心も弱っているなかでお金の心配をしながら医療機関に連絡して、必要な医療機器を手配したり、宅配デリバリーを調べたりしないといけなかったのだろうか。考えるだけで不安に押しつぶされそうになる。税金のおかげで私は助けられたと身をもって体験した。

家族を安心できる人たちの集まり、安心できる場所と考えるなら、私を見守ってくれた地域の人たちがみんな家族のようだった。家族の輪を地球規模に大きくすると、日本は税金を使い、ＯＤＡ（政府開発援助）をし、途上国に支援をしている。これによって途上国は負のスパイラルから抜け出せる可能性が出てくるという。地球上の家族という大きな輪を税が繋いでいて、みんなが安心して暮らせるように支えてくれているように感じた。

その輪の中にいる一員として私が今できる恩返しは、勉強に励み、将来社会に貢献できる人になること。そして、税金の種類や納め方、使われ方を学ぶことも大切だ。税金は種類も多く複雑で勝手に徴収されるからよく分からないでは済まされないことが今回勉強して分かった。少子高齢化が進む日本では限りある税金を正しく使うことが大切なのだ。そして、税金が繋いでくれた「家族」の優しさや心強さを知った人たちの輪は、次の世代にもしっかりと繋いでいってくれることだろう。